



伊豆市

議会だより

No.8

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 2006.5.1発行



「一年生になったら」を元気よく歌う新一年生（4月6日狩野小学校入学式）

目次 CONTENTS

■ 3月定例議会の概要	2
■ 行財政改革への取組み	4
■ 市長所信表明	5
■ 一般質問	6
■ 意見書・決議・請願	12
■ 委員会活動報告・議会中継のお知らせ	13
■ 市議会傍聴記・編集後記	14

平成18年第1回定例議会

会 期 平成18年2月24日から

3月16日(21日間)

提出議案

【平成17年度補正予算】

- 平成17年度伊豆市一般会計補正予算(第5回) 他7件

一般会計1億7930万円を減額し、総額161億5480万円になりました。

【平成18年度予算】

- 平成18年度一般会計予算他14件
一般会計総額154億7700万円になりました。

その他詳しくは『広報ぐず4月号』をご覧ください。

算チェック に審議 ありました

福祉文教委員会

◆ バスの借り上げ料

質 市バスが5台から2台に減少。この予算で学校行事等に支障をきたすことは無いですか。

答 出来るだけ市バスを利用するとともに、営業バス借上料予算の増額で対処します。

◆ 学校図書室の司書

質 学校図書司書の確保はできていますか。

答 司書は学校、生徒・児童の評価も非常に高いので、現状維持で確保していきます。

◆ 保育園民営化懇話会

質 保育園は民営化の方向で進めますか。

答 民営化に向けていきたい。総合的な子育て支援を充実させていきます。

◆ 基本検診の方法

質 検診方法が個別検診と集団検診になったが、受診の状況はどうですか。

答 医師の確保が難しくなり個別検診を入れました。受診者は、2000人減りました。

質 受診者を増やす対策はどうですか。

答 集団検診を増やすのは難しいが、地区の状況を考慮して検討していきます。

◆ 敬老会

質 今後どのようなかたちで開催しますか。

答 他の市町の状況などから1箇所で開催して、招待者は節目の年齢の方を検討しています。

総務委員会

◆ 人口比に対する予算規模

質 伊豆市の18年度の一般会計予算は154億円で、人口が2000人多い函南町(39500人)は97億円ですが、これの予算金額の差はどう考えますか。

答 人口に比較して施設の規模が大きくなっています。これらの経常的な費用が大きな原因と考えます。

◆ 田方消防の分担金

質 田方地区消防署の分担金の根拠は。

答 各市町の常設消防署職員の割合で、17年度は決めました。18年度はもう一度見直しをして決める事が課長会で決まっています。

◆ 各支所の借地料

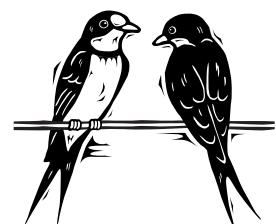
質 各支所の借地料はどうしますか。

答 公共用地としては、市の所有としていくのが本来の姿です。財源的な問題もあり、将来はともかく現状としては借地で進めていきます。

◆ バス路線

質 赤字バス路線の存続について

答 赤字路線、自主運行路線ともに生活弱者の利便性を犠牲にしないという考え方で、路線の維持に努めます。



平成 18 年度予 委員会で慎重 こんな質疑が

【条例】

●伊豆市介護保険条例の一部改正について 他15件

【人事】

●人権擁護委員候補者の推薦
大澤典明 氏（下船原）
●伊豆市教育委員会委員に
山田裕子さん（大平柿木）

【その他】

●国土利用計画（第1次伊豆市計画）の策定について 他

以上、すべての議案等は可決、推薦および同意されました。

土木水道委員会

◆ 地籍調査

質 この調査は任意か、今後の予定は。

答 調査は、任意の調査です。伊豆市の全体計画はまだ出来ていません。旧町の計画ですと、全体で40年のスパンの計画です。前半20年で宅地や農地の平地部分、後半20年で山林原野です。

◆ 合併浄化槽

質 設置者への補助は。

答 補助限度額は5人槽が40万4,000円、7人槽が46万1,000円、10人槽は56万9,000円です。

◆ 水道料金の設定

質 料金の統一と概算料金は。

答 これから審議で検討し、18年度中には方針を決め、単価の統一を図りたいと思います。今後施設の老朽化など、事業の投資額により料金設定がなされると思います。

◆ 下水道事業

質 旧町の下水道の接続率は。

答 修善寺処理区が80.6%、土肥処理区が86.6%、天城処理区が70%、中伊豆処理区が42.5%です。



観光経済委員会

◆ 市営施設のこれから

質 天城温泉会館のウェルネス利用は。

答 市民の健康づくりに役立つ施設にすることにより、観光客の増加を図っていきます。

質 中伊豆荘跡地のこれからは。

答 テニスコートは続けていきたいが、万天の湯はしばらく休業します。土地が県の所有なので市が購入し、その後どうするかを前もって考えていきます。

質 指定管理にした場合、虹の郷の運営は。

答 建物保険料、借地料、施設整備に関しては市が支出します。管理運営は、市と公社が基本的な協定を結び指定管理する。市で管理する部分と、協定に載らない部分については、市の負担でと考えています。

◆ 観光振興計画は

質 農林業、商工業も含んで観光の具体的な振興計画は。

答 観光振興の審議会を開き、市へ答申をしている。細かい観光振興計画は必要だと思うが、今のところ作る予定はありません。総合計画の中で対応していきます。

◆ 放置竹林をどうする

質 放置竹林の整備の方向性は。

答 予算があっても山林の所有者の協力がなければできません。森林組合と一緒に森林所有者の啓蒙をしてきていますが、難しい状況にあります。

行財政改革への 取り組み

市は今年一月に伊豆市行政改革大綱を策定し、行財政改革の推進機関として組織内に行政改革推進本部を、また審議機関として市民からなる行政改革推進委員会を設置し、行財政改革へ取り組む体制を整えました。以下に三月議会において審議・決定、報告された行財政改革に関する事項を紹介します。

①議会に行財政改革特別委員会を設置

議会に行財政改革特別委員会が設置されます。議会としても市政の簡素化、財政硬直化の打破のための方策について調査研究し、具体策を提言していきます。

②職員削減計画と実績

合併直前の平成15年度541人を、平成24年度までの10年間で110人削減する計画です。平成18年度職員数は493人です。現計画は10年を待たずに達成できそうですが、現計画達成後も新たな削減に取り組む必要があります。

③特別職の給与カット

市長、助役、収入役（現在不在）、教育長の給与を2年間にわたり、

それぞれ10%、9%、8%、7%減額する「特別職の給与の特例に関する条例」を制定しました。歳出削減効果は270万円。

④課長補佐級以上の管理職手当を一部カット

規則で定められているため、条例改正の必要がなく、議案として提案されませんでした。市は課長補佐級以上の職員の管理職手当を10%カットすることを決めました。歳出削減効果は550万円。

⑤議員報酬をカット

平成18年4月から一年間、議員報酬月額を2%減額します。歳出削減効果は160万円。

⑥職員の特殊勤務手当の一部廃止

市町村の行政改革を進めるにあたり、県が示した指針の中で不適当と指摘されていた現業手当、及び施設従事手当の二つの特殊勤務手当が廃止されました。

「虹の郷」運営費 年間4000万円 大幅削減へ

「虹の郷」を含む修善寺自然公園の管理費が大幅に改善されます。18年度から導入された指定管理者に（財）伊豆市振興公社が指定され、無料区域を含む公園の経営が委託されます。「虹の郷」の運営合理化案を柱とする、公社の自然公園経営計画が評価されたものです。これにより、これまで市が支出していた公園管理費の内、4,000万円が削除される見込みです。



中豆授産所の指定管理者 に「春風会」

「現在のサービス水準を維持しながら、経費削減や入所者の送迎など効率化が期待できる。また、入所者や保護者とのかわり合いが一番好ましい団体」との説明を当局から受け、議会は春風会の指定を承認しました。

介護保険料 65歳以上500円アップの 平均月額3,400円

平成18年度から3年間の介護保険給付費見込みから、保険料を算出。介護保険は、サービスの利用が増えると、保険料値上げに連動する仕組みになっています。高齢者の収入に応じた保険料が5段階から6段階になります。

「武力攻撃の事態等に対処するための伊豆市国民保護対策本部設置」を可決

賛成

わが国に対する外部からの武力攻撃や、予測されるに至った事態に対し命や財産を守るため、避難や救助などの仕組みを定めるもの。国民保護法で定めている「武力攻撃」は市民にとっ

ては「天災事変」でもあり、災害に変わりはない。有事の避難指示、医療の実施要請など対策本部を設置しなければできない。

討論

政府が「武力攻撃」として、ゲリラや特殊部隊による攻撃など4つの類型を示しているが、いずれも事前に予測できなかったり、政府の担当者自身が「現実にはほとんどありえない」と

認めている。予測のつかない攻撃から市民をどうして避難誘導できるのか。罰則規定まで設けて、住民を戦争に備えさせる体制をつくるもの。

反対

市長所信表明から

▼平成18年度予算編成

国勢調査による人口の減少などから、交付税は2億8,100万円程度減少する見込みで、非常に厳しい財政状況です。

財政の健全化に留意しつつ、個性と工夫に満ちた伊豆市づくり、環境型社会の構築、地球環境問題への対応、公平で安心な少子高齢化対策、過疎化等の課題を視野に入れ、地域の再生・活性化を目的に取り組みました。

▼行財政改革の一環として

本年4月から温水プールや修善寺自然公園などについて「指定管理者制度」を適用するほか、天城給食センターの調理委託の実施など、民間委託についての取り組み、組織の見直しなど、効率的な行政運営を図ります。

▼平成19年度以降の

財政運営の展望



平成18年度予算編成時点での財政調整基金の残高は3億8,142万円となり、これまでのような基金の取り崩しによる財源補てんは困難な状況となっています。

今後、使用料や公共料金、受益者負担の見直しだけでなく、施設の統廃合などの公共サービスの縮小についても早急に検討しなければならぬ状況です。一層の行財政改革に取り組み、職員の給与関係経費の抑制や、公務の能率的な運営を目指し、今年度から、施設勤務手当などの特殊勤務手当、退職時の特別昇給の廃止を実施するといたしました。

一般質問

内容については、要旨を掲載しています。紙面の都合上、一議員一質問です。詳しくお知りになりたい方は、各図書館・議会事務局で会議録をご覧ください。

不正アクセスに厳正な処分を

他の自治体の事例を考慮



質問

不正アクセスの調査や処分は、正確性、公平性に欠け、全く根拠がない。仕事中競輪賭博をやっていたことが、一ヶ月10%の減給で済むのか。又、ゲームや買い物等一月だけでも80時間以上不正使用されている。競輪賭博と同罪とは言わないが、処分なしで市民は納得するのか。

三須重治議員



答弁

競輪投票サイトへの不正アクセス問題の処分については、他の自治体の処分事例を調査した結果、判断したものです。ゲームや買い物等については、不正使用とは限らない。タイトルだけでは判断できないので調査を行うところだが、その結果改めるところがあれば厳正に対処する所存です。

市職員の不正アクセス問題

処分の変更なし



質問

市職員の不正アクセスに関して、①なぜ公表しなかったのか。報道に投書したのは。②サーバーの管理体制は。③1月分以外の調査、公表は。④処分の変更と名前の公表は。⑤今後、定期的な監視チェックは行うか。⑥職務規定の見直しは。

飯田宣夫議員



答弁

パソコン番号だけで個人を特定できるかを危惧したため、当初は公表しなかった。報道への投書は、市職員と思われる匿名の者です。サーバー管理は1台のホストパソコンで行い、責任者は情報システム課長です。処分の変更はしない。規定等については、懲戒処分についての規定を整備します。

公僕のマラルについて?

定期研修で責任と自覚を!



質問

市職員が就業時間内に市所有のパソコンで、不祥事を起こしたことは、市民を裏切り伊豆市の将来に光明が見いだせません。合併時の意識改革は、市発展を促すチャンスではなかったでしょうか。今まで公僕としてのモラルの教育は何を指導しましたか。条例改正をして、市民を入れた懲罰委員会を早急に設置すべく市長の見解を伺います。

大川 孝議員



答弁

公僕としてのモラル教育については、社会人としての自覚と責任が持続できるように、定期的な研修が必要だと思います。懲罰委員会については、市民参加だと諮問機関になるので条例が必要となります。他の市町を見ても内部機関としているので、現状の規定(委員は助役、部長)を適用していきたい。

行政改革への取組みは？

行政改革推進体制を整備

質問

①伊豆市行政改革大綱に基づき設置された、行政改革推進本部と同推進委員会の役割は何ですか。また改革による合理化の最終目標はお持ちですか。②市組織の縮小、管理職数の削減についてはどのように考えていますか。③外部への業務委託の合理化にどのように取り組みますか。

小森勝彦議員

答弁

①行政改革推進本部は、行政改革の計画策定と実施を担当し、同推進委員会は、市長の諮問に応じ審議するなど協力する。②行政の責任領域や関与の必要性を見直し、行政のスリム化、効率化を図る。③一部であっても、職員でできるものは職員でやり、委託費を減額する。

企画部は市をどう変える？

きめ細やかな行革推進を

質問

新しく出来る企画部について質問します。
①組織の内容（中に課が出来るのか、人数など）②業務の内容③企画部が出来ることにより、他の部課の再編がありますか。④3年目をむかえ、市長の独自のビジョン実現のために、この組織の組み替えにどのような役割を期待しているかお聞きします。

鈴木基文議員

答弁

①現在の総務部企画課、財政課、情報システム課を、企画部とする。②市の重要施策の総合的な企画や、予算・財務の調整など。③企業部を廃止し、観光商工課の課内室とすることなど。④国では、更なる地方行革の推進を進めています。企画部の創設で一層の行革推進をし、きめ細やかな対応をしていきたい。

厳しければ市債の増額を

公債費比率は上げられない

質問

交付税の削減は避けられない。大きな仕事をすれば厳しくなる。
財源確保、経費削減の対応は遅れ、固定資産の流動化、人件費削減など出来る事を怠り、市民に不便をかけている行政行為をなぜ財政難と言うのか。短期の市債の増額をなぜ怠ったのか伺います。

関 邦夫議員

答弁

交付額は4町合併前の12年度に比べて、17年度は23億円少なく、税収も6億円減少したことになります。
また、合併協議会の決定事項として、計画的な人員整理を行っておりますが、計画を上回る整理が進んでおり、適材適所を考え、やる気を喚起し、教育や組織作りをしていきたいと思えます。なお、返済を考えると公債費比率は高くできません。

木太刀荘の売却損失の責任は？

アスベストの認識の甘さがあった

質問

他の施設はアスベストの調査を進行。しかし、木太刀荘は調査から2ヶ月以上経過している時点でも『アスベストらしきもの』の認識から進展なし。この間、なにをしてきたのですか。その結果、木太刀荘の売却損失は1億5千万円です。市民への損失を「申し訳ありませんでした」で済ませ、誰も責任をとらないのですか。

木村建一議員

答弁

法律的には、アスベストが基本的に壁等でふさがれていれば良いという指針がありました。アスベストに対する認識の違いが、結果的には2ヵ月間の余分な期間を生じてしまいました。職員に瑕疵（過失）があったという状況でもないと考えています。

個性に満ちた伊豆市づくりは？

独自の誘客事業の展開で

質問

市長の所信表明どおり財源不足を補うため、徹底した行政改革と歳出の見直しは不可避です。

答弁

過疎化対策の考え方には、人口維持、または増加対策として、地域活性化による雇用、にぎわいの創出が必要です。少子化対策は、次世代育成支援行動計画の特定事業を中心に、子育てしやすい環境作りを支援します。伊豆市づくりについては、自然、健康、特産品などを活用し、独自の誘客事業の展開が必要です。

山下 一議員

再合併はありますか？

今すぐの合併はない

質問

先日、ある会合で市長のスピーチを聞く機会がありました。その中で興味を持った事があります。当市に嫁に行きたい（合併したい）ということばです。差し支えない範囲で結構ですのでもう少し詳しく教えて下さい。

答弁

先日ある会合の席で、近隣の町から非公式ですが合併の打診がありました。伊豆市においては、4町合併直後であり今すぐには合併は考えられない状態です。

酒井勲一議員

ゴミ焼却施設はどうなる？

建設地選定に向け取り組み中

質問

伊豆の国市との共同建設計画の廃棄物処理施設の進捗状況は。

答弁

施設整備に係る本年度の取り組みは、先の12月の定例会で審議した事務委託の協議に基づき、「建設候補地の選定業務」を1月16日、伊豆の国市において委託発注をしました。委託業者と2市で協議調整を図り、現在候補地選定に向けて精力的に取り組んでおります。

加藤 章議員

下水道事業見直しの考えは

合併浄化槽も視野に

質問

旧町時代から、下水道本管工事の計画があり、人口の集中している地域では効果的であると思います。しかし、伊豆市のように人家がまばらにある地域では非効率で、維持管理費がかかり将来大きな負担となる可能性があると思いますが、事業の見直しを考える気はないのか、お聞かせ願います。

答弁

建設資金は1割程度でできますが、長期債の返還費が負担になり、18年度は下水道事業などに6億円を一般財源から充当。環境整備事業は、時間が経っても進めることが、市にとって非常に有益だと考えています。全市を見据えて、稼働率の悪い地域は合併浄化槽への切り替えも考えています。

飯田正志議員

小学校などの統廃合について?

市民の意見を聞くことから始めたい

質問

少子化が進み、平成16年度出生数は208名で、小学校入学時、5人以下の学校が3校となります。子供は共に育つ環境が必要であり、健全な成長を第一義に考え、小学校の統廃合と合わせて、幼稚園、保育園の統合についても検討する必要があると思うが、教育長の所見を伺います。

古見梅子議員

答弁

学校統廃合は簡単にできる問題ではないが、出生数の減少で避けて通れない状況です。18年度、学校の統廃合を視野に入れて土肥南、月ヶ瀬、大東の三区において、保護者や地区の懇談会を実施して皆さんの意見を聞くことから始めたいと考えます。

幼稚園、保育園の統合は早期に検討していきます。

「認定子ども園」創設の考えは?

早い機会に実現にむけて検討

質問

文部科学、厚生労働省は、幼稚園と保育所の機能を持つ総合施設「認定子ども園」創設を決め、10月より施行する方針である。伊豆市の幼保の施設、少子化の急激な進行等の現状を考慮すれば、幼保総合施設への取り組みは急務である。国の動向が見えてきた今、教育長の考えをお聞きします。

木内一郎議員

答弁

国会で、「認定子ども園」の法案が提出されていますが、詳細はわかりません。当市では、幼稚園と保育園の両施設を使った幼保連携型になるとは思いますが、通園距離や規模などかなり検討が必要で、法案の詳細を見て、健康福祉部とも相談をして、早い機会に総合施設設置に向けて、検討していきたいと考えています。

土肥から西伊豆スカイラインへ

道路整備は時間が必要

質問

日本一の富士山を背景に土肥、虹の郷、修善寺を結ぶ西伊豆スカイラインの景観を生かし、数ある観光拠点を主に、市内観光ルートの作成、PRが必要と考える。そのためにも国道土肥側平石地先(バス停)より旧道までの改良工事、道路の整備が必要で、取り組みを考えては。

鍵山堅一議員

答弁

市内の観光めぐりルートの作成・PRは、伊豆市の活性化に不可欠と考えています。大型バスの土肥から西伊豆スカイラインへのルートは、当面の間西伊豆バイパスを利用し、船原側から上がってもらいたい。平石からの道路整備は時間がかかると思うが、入口付近の部分的な改良については検討したい。

伊豆中央道路の無料化は?

組織をあげて無料化の実現へ

質問

今工事中の修善寺トンネルが、19年度中に供用が開始されます。それに合わせて、伊豆中央道路の無料化の要望を行っていくべきと考えますが、市長の考えをお聞かせ下さい。

堀江昭二議員

答弁

修善寺道路の無料化で、横瀬や駅前渋滞解消に効果があると考えます。伊豆市が加盟する道路整備関係同盟会や賀茂地区の市町で組織する、道路関係同盟会に働きかけて、それぞれの要望活動の中で修善寺道路無料化を提案しています。

日赤病院産科の存続できないか？

現状では厳しい状況

質問

伊豆赤十字病院産婦人科が、4月から婦人科のみの診療になります。伊豆市以南の地域から産婦人科医療機関がなくなり、少子化対策に逆行する事態です。現在の状況、見通しを伺います。また、再開が難しい場合、『院内助産院』という形での、産科医療の存続に力を尽くしてもらえるか伺います。

室野英子議員

答弁

県当局並びに日赤静岡県支部へ、さらに3万余名の署名簿を持参して東海大病院に医師派遣のお願いしてきましたが、医師不足は深刻で極めて厳しい状況です。今後近隣市町とも協力して、産婦人科医の確保を要望しています。院内助産院については、病院側として、諸般の事情により、設置は難しいとのこととす。

早急に宮上区集会場建設を

前向きに検討中

質問

老朽化の激しい宮上区集会場は、危険指定箇所にあります。区民の長年の夢である、災害時に遠くへ避難しなくてもよく、風雨の強い日でも安心して集まれる集会場の建設は、避難施設の充実と同時に、地域の防災センターに利用できる拠点作りとして、早急に検討し実施すべきと考えますか？

杉山羌央議員

答弁

現在、宮上集会場はハザードマップに指定される危険区域であることは認識しております。これまで移転予定地として挙げられている土地が、現在狩野川漁協で所有している土地であり、市有地との交換によりこの土地を取得し、宮上区が集会場を建設できるように検討を進めております。

今、会計責任者は誰か？

会計課長が代行を

質問

収入役が不在です。収入役に代わる会計責任者は誰ですか。市長ですか、助役ですか会計課長ですか。収入役を置かない場合は条例が必要ですか。その場合の会計責任者は市長または助役とするとあります。伊豆市の会計責任者は、市長ですか、助役ですか。

森 良雄議員

答弁

収入役が不在の場合は、会計課長が代行しています。収入役不在は、人口5万人以下の自治体には認められていると解釈しています。

「結婚相談の会」の現状は？

成婚を目指し日夜努力

質問

伊豆市総合計画の中に、将来の目標人口が示されました。これからあらゆる手立てを講ずる必要があります。特に「結婚相談の会」が、よりいっそう使命を強く自覚し、お嫁さんの獲得に向け、主導的役割を果たしてもらいたいと思いますが、「結婚相談の会」の現状をどのように認識し、どう評価していますか。

内田勝行議員

答弁

少子化問題が社会的にも取りざたされる中、農山村の嫁不足も深刻な問題であり、結婚適齢期を逸した男女の年齢構成も高年齢化しています。「結婚相談の会」は、このような現況を少しでも解決するため、相談員の方々が日夜努力され、一人でも多くの成婚を目指して活動されております。その奉仕の精神には頭の下がる思いです。

消防団と自主防の一本化は？

連携は重要だが別組織で

質問

災害は忘れた頃にやってくる。伊豆市は狩野川台風以来、大災害もなく平穏であるが、常に非常時に備えておく必要があり、消防団と自主防災会は何れも防災、減災が最終目標。命令、指令系統の一本化のために両組織の統合を検討してはいかがですか。万が一にも行き違いが起きないようにするために。

小野忠宏議員

答弁

現状の各組織は、消防団が14分団、自主防災会は133自治会中117組織、消防班については33組織です。隣接集落に団長の命令で出動しなければならぬ消防団と、自主防災会は別組織の方が良いと思います。しかし、連携を深めることは重要です。

公共施設などの耐震補強は？

緊急性の高いところから実施

質問

いつ起こるか分からない大地震に備えて、地震対策が急がれています。木造住宅の耐震診断と、耐震補強工事の利用状況、そして公共施設で未耐震の施設と、その耐震化をどのように進めていく計画かお伺いします。

杉山 誠議員

答弁

対象となる木造住宅で補強工事が0.2%と利用が進んでいません。引き続き啓蒙活動をして、住宅の耐震化を進めていきます。公共施設の耐震状況は、3月中に集計を完了させ、伊豆市全体の耐震計画を策定する予定です。現在は、学校など緊急性の高いところから耐震化を進めています。



3月定例会で意見書・決議を採択し関係機関に提出しました。

意見書・決議・請願

伊豆赤十字病院産科休診に係わる産科医確保に関する決議を全会一致で可決

伊豆赤十字病院産科は、昭和39年に開設され、近年年間300件ほどの出産が行われている病院です。

この度、東海大学医局より、平成18年3月末で産科診療の休診を告げられました。

これにより、伊豆中南部地域には、順天堂大学付属静岡病院を除き産科がなくなります。

産科医の不足は慢性化しているとのことではありますが、日赤産科の休診は、少子化を一層助長するものであります。

産科医確保が実現されるよう強く理解と協力を求めるものである旨の決議が可決されました。

提出先

東海大学医学部専門診療学系産婦人科
伊豆赤十字病院 院長
日本赤十字社静岡県支部
静岡県知事

三島社会保険病院の存続と機能の充実を求める意見書

三島社会保険病院は、伊豆半島地域医療に不可欠な公的医療機関の中核的病院としての役割を果たしてきている。

当病院は静岡県東部地域における唯一の腎臓移植をおこなえる医療機関として、また血液透析導入時の基幹病院として伊豆半島一円からの慢性腎不全患者を受け入れている。

救急医療では24時間体制で患者を受け入れている。静岡県東部地域において欠くことのできない病院であり、今後も地域医療及び救急医療を担う拠点施設として、その機能の充実を願うものである。

よって、国においては、三島社会保険病院が担っている、こうした機能を十分に理解し、当病院の存続及び今後一層の機能充実を図るよう強く要望する。

提出先

内閣総理大臣
厚生労働大臣
社会保険庁

出資法の上限金利の引き下げ等を求める請願

上限金利の引き下げで高金利に困っている人を守ろう

出資法の上限金利の引き下げ等「出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律」及び「貸金業の規制等に関する法律」の改正を求める意見書を政府等に提出することを求める請願を採択し意見書を提出しました。

国の公定歩合は年0.1%、銀行の貸し出し約定平均金利2%以下にかかわらず、29.2%という出資法の上限金利は高すぎる。これでは病気、怪我、リストラ等での利用者は返済が困難となり多重債務問題が起きる。

また、一定条件を満たした場合、制限を超えた利息も認めている貸金業規正法43条は撤廃すべきである。

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、法務大臣、金融担当大臣

常任委員会活動報告

観光経済委員会

所管事務調査により、農業振興の現況と課題をテーマに1月19日、伊豆市農業振興会、認定農業

者協議会と懇談会を開催しました。振興会の会員は931名、26部会です。

今回は梅、椎茸、山葵、耕種部会の課題について聞く機会を得ました。特産物の椎茸の生産量は平成16年度の統計で全国第1位、水山葵も15年度で第1位です。山葵、椎茸以外の特産品のブランド化を奨める必要があるとの意見がありました。問題点としては、特に鹿の被害が大きく、その対策の実施を求める要望がありました。耕種部会では、大豆の収穫量を5トンから10トンにし、農地を5町歩から10町歩に目標を揚げ、農

農業振興の現況と課題は

地を探している。販売先として豆腐加工販売所（季多楽）が紹介されました。

椎茸部会は4月6日に組合が正式に発足し、会員は約130名に達したこと、また後継者不足が緊急の課題であることが報告されました。

平成18年1月1日現在の市の就業割合は、第1次産業9%、第2次産業は20%、第3次産業は71%となっています。農業の活性化のためには、地産地消を強力に推進し、予想される食糧危機に対しては、遊休地を利用して、農産物を育てる楽しみを普及させ少数精鋭で効率の良い農業生産を目指すし、自給自足の育成を啓蒙していくことが必要だと感じました。

議会中継の

お知らせ

議会傍聴をしてみたいけど、議場まで遠くて、なかなか大変という方にお勧めします。

下記の施設で、議会の生中継をご覧いただけます。

日程等については、伊豆市ホームページの「議会」、伊豆市広報カレンダーをご覧ください。

また、その他詳しくは議会事務局へお問い合わせください。

電話 8512606

各家庭のインターネットによる議会中継は、映像機器を操作する人の配置の問題や、マイク調整などの課題があり、市民の皆さんに満足できる視聴が配信できないため検討中です。

〔修善寺地区〕

伊豆市本庁ホール1階
総合会館観光協会前ロビー
老人憩いの家回復訓練室
城山活動支援センターホール

〔中伊豆地区〕

中伊豆支所ロビー
中伊豆中央公民館ホール
中伊豆保健福祉センターホール
中伊豆住民交流センター

〔天城地区〕

天城湯ヶ島支所ホール
天城保健福祉センターホール
湯の国会館多目的ホール
狩野ドームホール

〔土肥地区〕

土肥支所ロビー



天城支所ロビー

議会傍聴へ行ってきました!

「危機感を持って傍聴に参加」

山崎光義さん 72 歳 (茅野)

自己研修のため、行政の動きと新しい情報を得たいと、議会傍聴に出かけました。

最近の行政改革、指定管理者問題、公有財産の処分、不祥事発生などの最中でもあったからか、議場は議員の真剣な様子を強く感じました。しかし、行政側の答弁は多少淋しさを感じました。この日私は、少子化による学校統廃合問題や行革や不祥事など興味津津でした。街のあちこちで「旧4町の方が良かった」とか「合併の良さが見えない。良くなったのは市長以下職員や議員の給料が上がっただけでは」「市の職員に危機感が見えない」などの声をよく耳にします。行政は市民にもっと理解してもらえるよう活動をすべきだと思います。「金がなければ知恵を出し、汗をかく」しかないでしょう。一般市民の声を大切にするために聞く場を与え、策を出してもらおう努力が欲しい。7億3千万円の地方交付税も有効に使ってほしいもの。市長はかつて民間企業のトップリーダーを務めた実績から、一生市長を職する気構えで10年後、50年後、永代に渡っての伊豆市のあり方のポリシーを持ってビジョンを示して欲しい。私は最近の指定管理者制度の導入や随意契約などは入札とはいえ、特定業者と単独契約の可能性や談合など、どれだけ経費が浮くか、人が浮くかなどよく理解できない。指定管理者やパソコン導入で合理化しても、リストラのできない行政では人は余るばかりでは?

最後に住民の皆さん、多くの市民が監視の目を光らせて傍聴に参加する事で議員に活力を与え、行政側も議員も真剣に取り組むと思います。

「迷惑な風もあろうが柳かな」

落合正幸さん 64 歳 (上船原)

よく耳にしません?

柳の木は風に身を委ねることで「自分の身は自分で守るしかないよ……」って教えている。

まさに今の世の中、四六時中そんな風を感じていますが困ったものです。

さて、この程、市の定例議会の傍聴を得ることが出来ました。

日程は一般質問で、最近テレビでよく見たあの国会中継とは違って、私たちの最も身近な問題の質疑応答です。

18年度予算、固定資産の流動資産化、木太刀荘、職員削減、入札、随意契約、防災、公僕モラル、パソコン、地域の活性化、少子化、結婚相談の会、日赤産婦人科存続、学校統廃合、環境教育、有害鳥獣、次期合併、行革、組織改革、……等など。

総じて出口の見えにくい多くの難問に質疑が及んだ。せめて、中に若干の明るい材料も欲しかった。

傍聴席は、報道関係者も含めて十数名。質疑の席に立つ議員さん、応答席の行政側諸氏。

国会ほどではないものの、やり取りはかなり厳しい。度が過ぎると傍聴席へのシナリオでは?と耳を疑う。そんな中、議会も閉会に近くなる頃「どうか一過性の応答で終わることのないように」また、市長さんや管理職の方々にも、時に職員思いもいければ是非「市民に好かれる窓口であって欲しい」「みんな、伊豆市が好きだから……」ひそかにそう願って傍聴席を離れた。

編集後記

18年度の前案は原案通り、全て可決されました。

海、山、川と自然に恵まれ小下田から熊坂、冷川まで広大な面積に3万8千人弱の人々が暮らしています。

多くの施設が重複し、人件費がかさみ問題となっているが短時間での解決は困難です。

2年経過しても雇用対策に地理的条件から名案がなく、時間が過ぎました。一般質問でも解かるように、議員も大きな問題として取り上げていますが、市民生活の基本となる大きな課題です。

職員の不正問題もありましたが、市長は前途ある若い人に厳罰でなく、二度と失敗を繰り返さないことを肝に銘じさせ、今後の活躍を期待しました。

副委員長 関 邦夫

